

4月26日 復活節第4主日

良い羊飼い

ヨハネによる福音書 10章 11～18節

¹¹「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。¹²羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。一狼は羊を奪い、また追い散らす。—¹³彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。¹⁴わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。¹⁵それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。¹⁶わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。¹⁷わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。¹⁸だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」

他の朗読：使徒言行録 4:8～12 詩編 118:1, 8, 9, 21～23, 26, 28, 29 | ヨハネ 3:1, 2

Lectio …読む

羊飼いのイメージはユダヤ文化の中でよく知られたものでした。宗教的指導者たちに対して、また同様に政治的指導者たちに対しても、しばしば「牧者たち」という呼び方が使われました。このたとえは詩編 23 編の広く愛されている聖句の中で、主ご自身を表して用いられています。

旧約聖書においては、羊たちを導くことの重要さがしばしば強調されました。これとは対照的に、ヨハネは羊飼いと羊たちとの深い関係の方に焦点をあてています。ご自分は弟子たちにとって、指導者以上の者であるということを強調するために、イエスはよく知られたたとえを変形させたのです。羊たちは羊飼いの声を聞き分けて彼について行きます。羊飼いは彼の羊を個別に知っており、それぞれの羊たちの必要を知っています。

詩編 23 編とヨハネ 10 章の重要な相違点は、ヨハネの福音書ではイエスは自分自身を羊飼いであると言っている点です。詩編 23 編で詩人ダビデは「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない」と預言的にそのたとえを主に当てはめています。

イエスと詩編作者は、主は羊飼いであるという点では同じことを言っています。そしてイエスは、自分は羊たちのために命を捨てる、と付け加えています。イエスは忠実な羊たちの全ての精神的な必要を満たすことでしょう。羊たちに求められているのは、イエスの声に耳を傾け、彼がどこへ行こうとも後について行くことだけです。

良い羊飼いであるイエスは、いまだ群れの中に入っていない羊たちをも考慮しています。彼らもイエスが成就しつつある約束の中に含まれているのです。

18 章でイエスは犠牲の死を選ぶことを明確にします。ローマとユダヤの権威者たちは自分たちが支配しているのだと思っただけでしたが、十字架の上からさえ、状況を完全に支配していたのはイエスだったのです。

Meditatio …黙想する

イエスはご自分を「良くない」羊飼いたちとどのように区別していますか。良い羊飼いは羊たちをどのように警護するのでしょうか。イエスが、羊たちを襲う狼たちのことを言うとき、イエスは誰の

ことを指しているのでしょうか (マタイ 10 章 16 節参照)。イエスは彼の羊たちを最終的にはどのように守るのでしょうか。

Oratio …祈る

私たちの頭の中の雑多な考えが、神の静かな声をかき消しているのかも知れません。イエスがあなたに語りかけるとき、その声を聞き分けられるよう、イエスに聖霊の力の助けを願いましょう。神の語りかけを識別することが出来るよう、聖書のみことばに浸る機会が与えられていることを感謝しましょう。また、イエスが教会と私たちのキリスト者としての生活の土台であることに感謝を捧げましょう。(詩編 118 編 22 節)。

Contemplatio …観想する

今日の他の朗読は福音朗読をより確かにします。ペトロは、ユダヤの宗教の指導者たちを前にした説教の中で、救いはイエスを通してのみやって来ると主張しています (使徒言行録 4 章 8 ~ 12 節)。

1 ヨハネ 3 章 1、2 節の中で、私たちが神の子と呼ばれるほど、神は私たちを愛してくださっていることを学びます。私たちはイエスの再臨に向かって歩んでいます。その時私たちは、イエスがまさに「良い羊飼い」であることを実際に見るでしょう。